

# もくじ

はじめに

「四字熟語」「故事成語」とは？

この辞典のつかい方

あつものにこりてなますをふく

異口同音

一部始終

一望千里

山紫水明

断崖絶壁

人跡未踏

一網打尽

一蓮托生

一刀両断

快刀乱麻

烏合の衆

雲散霧消

知っているかな？ 天気の違い伝え

24 22 20 19 18 17 16 15 14 14 12 11 10 8 7 6 2

雲泥の差

榮枯盛衰

花鳥風月

我田引水

危機一髪

間髪をいれず

牛飲馬食

鯨飲馬食

玉石混交

欣喜雀躍

君子は豹変す

螢雪の功

捲土重来

紅一点

虎穴に入らずんば虎子を得ず

小春日和

五里霧中

45 44 42 40 39 38 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26



三寒四温さんかんしおん  
 獅子奮迅ししふんじん  
 舌先三寸したさきさんすん  
 杓子定規しやくしじょうぎ  
 雌雄を決するしゆうけつ  
 出藍のほまれしゅらん  
 順風満帆じゆんぷうまんぱん  
 枝葉末節しやうまつせつ  
 助長じうちやう  
 針小棒大しんしょうぼうだい  
 森羅万象しんらばんしやう  
 青天のへきれきせいてん  
 青天白日せいてんはくじつ  
 大器晩成たいきばんせい  
 太公望たいこうぼう  
 蛇足だそく  
 朝三暮四ちやうさんぼし  
 猪突猛进ちよとつもうしん  
 津々浦々つつうらうら

65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 50 49 48 47 46

電光石火でんこうせつか  
 天変地異てんへんちい  
 桃源郷とうげんきやう  
 とうろうの斧おの  
 波瀾万丈はらんばんじやう  
 百花繚乱ひゃっかりやうらん  
 覆水盆に返らずふくすいぼんかえ  
 矛盾むじゆん  
 明鏡止水めいきやうしすい  
 累卵の危うきるいらんあや  
 画竜点睛かりやうてんせい  
 杞憂きゆう  
 漁夫の利ぎよふのり  
 呉越同舟こえつどうしゆう  
 五十歩百歩ごじゅうほひゃくほ  
 塞翁が馬さいおうがうま  
 四面楚歌しめんそか  
 推敲すいこう  
 他山の石たざんいし  
 とらの威を借るきつね  
 あいうえおじゆん さくいん



5

86 85 85 84 84 83 83 82 82 81 81 80 78 76 74 73 72 70 69 68 66

# あつものに こりて なますを ふく

い  
み

一度しっばいしたことにこりて、  
しなくてもいい用心を  
することのたとえ。



あつもの

かいせつ

「あつものは、あついすいもの。  
「なます」は、つめたいすいもの。  
あついすいもので  
口をやけどしたのにいりて、  
つめたいすいものを  
ふうふうとふいて、  
さまそうとした話から。

つかい方



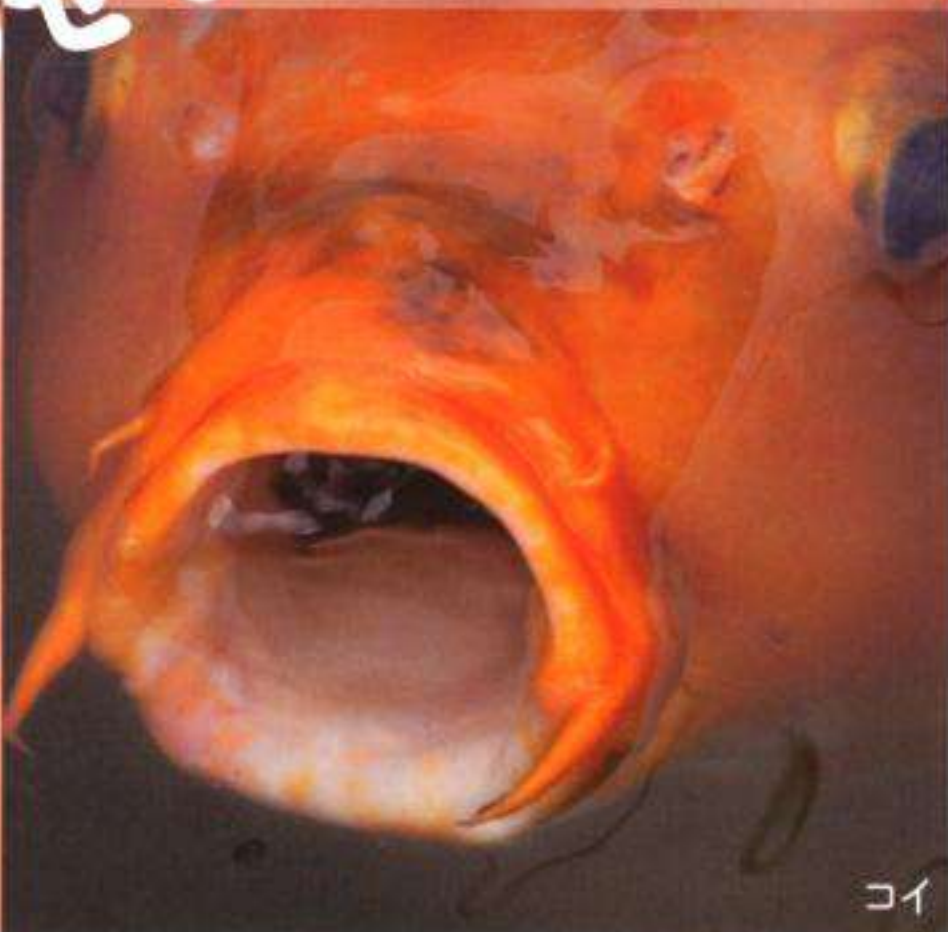
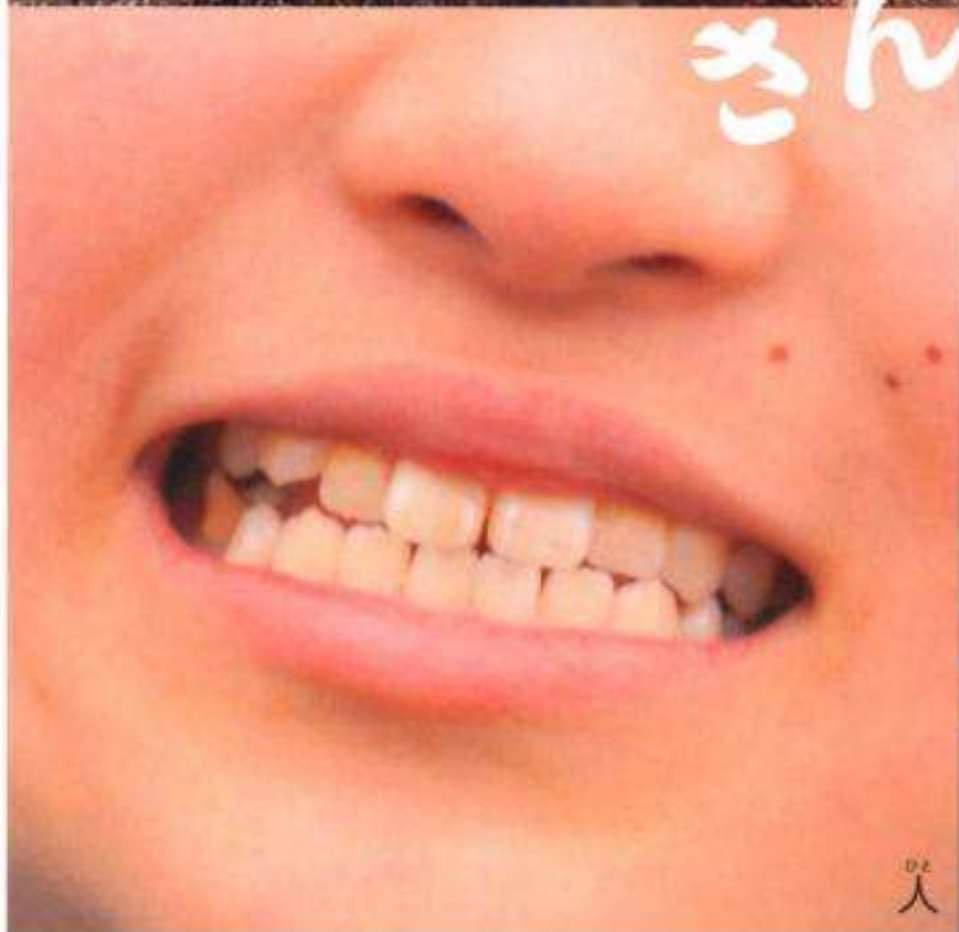
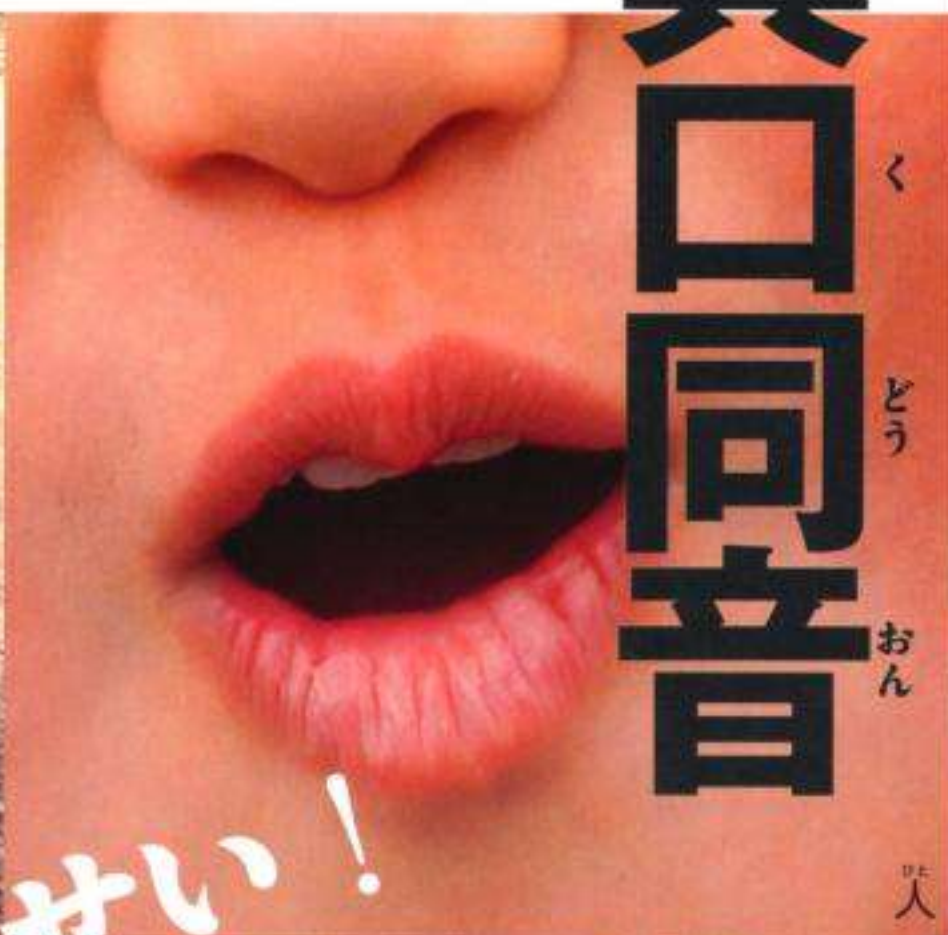
大きな犬にほえられた  
ことがあるからって、  
こんな小さな犬からも  
にげだすなんて、  
あつものにこりて  
なますをふく  
ようなものだ。



なます

# 異口同音

異なる口が同じことを言うこと



いみ

多くの人が、口をそろえて同じことを言うこと。「異句同音」と書かないこと。



リーダーの意見に、みんなが異口同音にさんせいした。

# 一部始終

いみ

ものごとの始めから  
終わりまで、ぜんぶ。

かこせじ

「一部」は、  
本一さつのこと。

つかい方

一さつの本の  
始めから  
終わりまで  
ということから。



子ねこ救出の  
一部始終を  
目撃した。



本の  
始め

本の  
終り



# 一望千里

いみ

見わたすかぎりの広い様子。

かいせつ

一里は、やく4キロメートル。  
「千里」は、

やく四千キロメートルで、

とても遠いところまでということ。

箱根から見た富士山

高いところからの  
ながめは、  
まさに一望千里だ。





# 一網打尽

いち

もう

だ

じん

いみ

悪人などを

ひとまとめにしてとらえること。

かいせつ

魚をとるときに

投げ入れた網で

あたりの魚を

すべて

とらえることから。

網

つかいかた



わるものを一網打尽にする。

# 蓮托生

蓮の花

いみ

なかまとして、行動やうんめいを、  
ともにすること。

かいせつ

しんだ後、極楽浄土で同じはずの  
花の上に生まれるということから。

つかい方



こころなったら、  
きみとは一蓮托生だ。

はずの地下茎は、  
れんこん

野菜のれんこんは、  
地中にある、  
はずのくき  
なんだよ。



# とろろろの斧おの

いみ

力のないものが、自分の力も考えずに強いものに立ちむかうこと。

かいせじ

「とろろろ」は、かまきりのこと。  
かまきりが前あし(斧)をふり上げて、車の車りん(輪)にむかっていったという話から。



前あし



つかいぢ

初心者なのに  
チャンピオンと  
たたかおうなんて、  
とうろうの斧だよ。

# かまきりは、 本当に前あしを ふりあげる

かまきりは、こん虫や、小さなとかげ、かえるなどを、前あしでつかまえて食べる。ねこなど、とてもかなわないどうぶつにたいしても、前あしをふりあげて、たちむかっていくよ。

